

春に増えるコバエ
(チョウバエ)の防除

温かくなって屋外でもコバエが発生し始め、それが屋内へ侵入し、屋内発生が増える時期になりました。今回はコバエの中でも、特に悩まされることの多い「チョウバエ」について、ご紹介します。

チョウバエはその名の通り、体に対して翅が大きくチョウのような見た目をした1~5mm程度のコバエで、図1のような見た目をしていますが、カに近い仲間です。厨房内の排水やシンク下等の水回りによく発生し、幼虫はそこにあるヘドロや残渣等の湿った汚れの中で、これらを餌に成育することが多くあります。発生しやすい箇所は機械下や裏、配管内等の手や目

の届かない狭い所にも多くあり、清掃はもちろん液体の殺虫剤を行き届かせることも難しいと思います。また、スプレー型の殺虫剤を使用しても、成虫には効いても汚泥の中の幼虫には効かず、発生を抑えられない場合も多いです。

そういった場合には、ノズルやチューブを取り付けて、狭所等の重点的に処理したい箇所に対応できたり、成虫だけでなく幼虫にも効く成



図2：(左)コバエ用ムースFT (400ml)
(右)ファーストキルN (400ml)



図1：チョウバエ (左：成虫、右：幼虫)

分が含まれている殺虫剤が有効です(ファーストキルN、コバエ用ムースFT等)。

弊社ではコバエ類の防除として、殺虫処理や殺虫剤の販売の他に、清掃、配管洗浄、汚れが残りにくく流れやすくなるような床面、排水溝の改良工事も行っております。コバエでお困りの際は弊社までお気軽にご相談ください。



図3：チューブを使いコンクリートの隙間へムースを注入

今月の

豆知識

国による虫の名付け方の違い

虫には全世界的に見られる種類の虫がいて、その国々によって呼び方や名称の由来が異なるものがあります。

例えば、一見ハチにも見えるアブの一種のアメリカミズアブは、日本では昔は汲み取り式便所でよく見かけたことから、別名「便所バチ」とも呼ばれています。しかし、その黒く光沢があり、ハチとも見間違えるスマートな姿のアブ(ハエ目)から、英名では「Black soldier fly(黒い兵隊ハエ)」と呼ばれています。日本の別名では汚そうで一般的に良いイメージのない虫ですが、英名だと何だかカッコいい虫に感じられますね。

一方、違う国でも、同じ由来の呼び方の虫もいます。一般家庭でもよく見かけるシミは、書籍等を食害することで知られており、動きが早く、くねるような動きが魚に似ていることから、漢字では「紙魚」と書かれます。英名でも「Silver fish(銀の魚)」と呼ばれており、シミの色彩や動き方から名付けられたことが分かります。

こういった、同じ生物でも国による名の由来の違いを調べてみると、文化の違いが感じられて面白いかもしれません。

